

令和7年度京田辺市障害者基本計画等策定委員会（第2回）議事録【要旨】

\*京田辺市障害者計画等策定のためのアンケート結果等について

○質問・意見

【委員】調査対象者は全ての障害者手帳所持者から無作為抽出したということだが、3種類の手帳の比率は考慮されたのか。また、前回と調査項目が代わっている項目は難しいが、調査結果の比較があると時間軸での検討もできると思った。

【事務局】各障害者手帳の種別と年齢の比率はある程度考慮した。各障害者手帳の総数が4：3：1であれば、正確ではないが抽出の比率も4：3：1になるよう調整している。年齢についても同じ比率に沿って抽出した。

【委員】70歳以上が約50%となっている。

【事務局】障害者手帳の所持者は高齢者が多いため、少し若い年代を増やした。

【委員長】身体に障がいのある方の高齢化率は全国でも7割を超えているので、調整は難しいと思う。

P17～P19の利用しているサービスに関する質問で、現在利用しているサービスは何かについて、73.8%が「不明・無回答」であるため、データとして使いづらい。どのサービスも少しずつしか回答がないように見える。今後利用したいサービスについては66.8%が「不明・無回答」、過去5年間使いたかったが使えなかったサービスについても、96.7%が「不明・無回答」だった。

事業所アンケートでは、こういうサービスが使いたいという意見が出てくるが、なぜこのような差が出るか。使いたいサービスがない、と受け取ってはいけないと思う。手帳を持っているが、サービスを使っていない人はたくさんいるのか。今のまま暮らしたい人が多いがこのままでいいのか。親の高齢化なども市も把握されていると思うが、その辺りの課題をどのように考えているか。

【事務局】サービスを利用している方でもサービスの種類が非常に多く、難しいサービス名でもあるため、当事者自身が何のサービスを使っているのか分からない方も多い。現在、成人のサービス利用者が約650名、児童通所のサービス利用者が約500名。アンケートを手にした方の割合からすると、サービスの利用者は少ない。

【委員長】この辺りの分析も大事である。

【委員】自由回答の反映も必要であると思う。P14問17 仕事を「していない」方が70.5%で非常に高い。P16問19-1 退職・転職の理由で、「周囲とのコミュニケーションがうまくとれなかった」が高い。障がいのある方の就労支援のしくみが大事。P25 相談・情報・コミュニケーションでは、問26のコミュニケーションをとることに困った場面について「初めて行くところに出かける時」や「病院にかかった時」が高い。情報入手のしやすさでは、「市役所の窓口」や「行政の広報紙」と回答されたが、外出時やコミュニケーションで困っていることが多いので

計画策定でどう考えていくのか。P26「6 一人ひとりの権利を守る取組について」は、問28 日常生活のどのような場所で合理的配慮が不十分なのか、「交通機関」、「医療機関」、「商業施設」が高い。色々なところで合理的配慮が広がっているが、どう考えていくかが大事。P30「7 災害などが起こったときについて」は、問34 避難所に必要だと思う配慮について自由回答でも出ていたが「仕切りや個別スペースの確保」、問35 避難所で過ごす場合の不安については「トイレなどの設備が整っていない」「プライバシーの配慮がされない」、問36 困ること、心配なことについて「治療が受けられない、薬がもらえない」という課題がある。今後は障がいのある方への対応について、さらに考えて進めていく必要がある。P40 問46-2 「11 介助者について」は、「母親」が36.6%と高く、問46-3では「70歳以上」が33.9%で、本人も親も高齢になってきている。将来的にグループホームなども含め、対応の検討が必要ではないか。

【事務局】 就労に関しては、高齢者の回答が多かったことが影響した。働ける年代について、障がい福祉課で就労支援の取組も進めているので、他機関と連携しながら行っていく。

コミュニケーションについては、特に精神・療育の方の取りづらさが分かる。意思疎通支援を今後どうしていくのか、次年度の計画の施策に反映できるかということも含めて検討したい。

避難所は、医療的ケアの方も含めて、避難すること自体が難しいと聞く。薬は事前に医療機関、ドクターと相談して余分に自宅に置いておくこと、避難所の過ごし方については、市でできることを防災担当と相談させていただきたい。避難所については、以前、自立支援協議会の専門部会で、市の防災担当や避難所担当と意見交換した。

そこから、今回のアンケートに新たな項目を盛り込むことにつながった。自由回答もしっかり読んで検討したい。

【委員】 全体を通して、クロス集計を活用してアンケート結果を施策に盛り込んでいただきたい。

P17のサービス利用については、サービス利用者を絞った上での集計が必要な項目ではないか。P14 問16 「あなたは、働きたいと思いますか」に対して、「思う」が38%、「思わない」が48.3%だが、就労年齢に絞ったクロス集計だと割合が変わると思う。

問17 「あなたは現在、仕事をしていますか」に対して、問16 働きたいと思う人の中でどれだけの人が働けているのか、働けていないのか、働く場を持っていないのかという集計が必要。家族と同居で主な介助者が家族であるとか、どういう障害種別の方の割合が高いのか、どの年齢の人が家族介護に頼る傾向が強いのかという分析も必要。アンケート回答だけを見せられても困る。

P7 問11 「今のまま生活がしたい」が54.3%、今、ひとり暮らしなのか家族同居なのか、どういう家族形態、生活形態で今のままの生活を望んでいるかも重要。今のままの生活を望む方が多いにも関わらず、家族介護者が高齢の母親に高い比率を示しているというこ

とは、今のままの生活が維持できない前提になる。家族介助が主だと、P42の「どんな負担を感じているか」という問いに、回答者の半数以上が「心身ともに疲れる」「時間が持てない」「将来の見通しがたてられない」「自身の健康について不安がある」と回答しているにも関わらず、今のままを本人が望んでいても家族は受け止め切れていない現状が見える。相談支援などの介入からフォーマルなサービスに移行していく取組が計画の中で必ず必要。

【コンサル】 報告書の完成度は現状6割程度で、クロス集計を反映して完成させていく。年齢別、性別、手帳所持者別に集計を行っている段階である。働きたい方が働けているのか、ご家族との同居か1人暮らしかという設問もあるが、その方々が現在の生活を望んでいるのかどうか、改めてクロス集計しながら分析を重ねていきたい。今後、計画の策定の際に反映できればと思う。

【委員長】 アンケートをするからには、回収率を6割、7割に上げたいと思うが、回答期間が短かったのか、自由記述などがあり難しかったのか、量が多すぎたのか、どこに課題があるのでしょうか。

【コンサル】 設問の多さはどこの市町村も抱える課題。ただ、市は把握したいためにこれだけの設問数になっている。今回、Web回答の選択肢を広げたが、このような結果になった。当社の中での比率として、障がいのある方のアンケートは、回収率は近年、悪いところで30%前半で平均的には4割くらい。京田辺市の場合、他のアンケートや国勢調査もあり、調査が多い期間だった。年末年始を挟みこのよう結果になったが、サンプル必要数は満たしているので問題ない。設問数がどんどん多くなっているの、どこかで削り、割り切ってヒアリングにするなど、検討の余地がある。

【委員長】 年齢の割合でアンケートの送付数を調整すると、高齢者が多いので、逆に若い人や障がい児の割合で調整するとデータの量が小さくなっては困ると思う。

【コンサル】 アンケート調査は、結果によって正解・不正解を決めるものではない。回答数が多ければ多いほど、市全体の傾向をつかみやすい。全体の傾向と、さきほど指摘のあったサービスの種類について不明回答が多い分野は分析しづらいところもある。

【委員】 P43 問48とP61の事業者アンケートについて。問48の回答として「サービス利用の手続きの簡素化」が1番、次に「なんでも相談できる窓口」に特に力を入れてほしいという結果が出ている。P61では、「事業運営に必要な情報提供」、「行政との情報共有」が上位に挙がっている。地域でつながりながら情報発信・共有することが障がいのある方の自己決定につながっていく。結果に基づくと、行政だけで補えない時に福祉事業所とつながるなど、説明ができる場所を増やしていくことが京田辺市に必要とされていると思った。

アンケート結果を見て、課題は何なのか、情報共有について地域の団体と協力していきたいことがあるのか知りたい。

【委員長】 自分のニーズや求めるサービスを言語化、表現するために丁寧な説

明や何でも相談できる場所が必要だということだと思う。

【事務局】本市の委託相談支援事業所の周知が進んだと思うが、まだ障がいのある方やご家族が相談できる場所を知らない方もいる。自立支援協議会でもチラシを作成し、民生委員などを通じていろいろな相談ができることを啓発している。今後も、地域などからも発信していただきたい。

以前は、障害当事者団体の活動や構成が充実し、団体に所属していることでいろいろな情報が得られたり、相談ができる場になっていたが、団体ヒアリングでも会員の高齢化と会員数減少が課題として挙げられている。団体に対してどこまでどのような支援が必要なのかも考える必要がある。

\*京田辺市障害者計画等策定のための市民アンケート調査・事業者アンケート調査について

○質問・意見

【委員長】例年どおりか。

【事務局】そのとおり。

【委員】日程の決定は早めにしてほしい。